

留学帰国報告書

氏 名 : 田邊 冨

留学期間 : 2016年9月~2016年12月



1. 出発前の準備

私は、留学生が多く異文化に触れられるところで、ビジネスを英語で学び様々な国の学生と意見交換をしたいと思い、レンヌ商科大学へ交換留学しようと思いました。ビジネスを専門的に学んだことはありませんでしたが、一年生の時に経営学総論や商業総論などの概要科目を履修していたので、その基礎知識を活かして応用させることができました。ビジネスの基礎知識を勉強していれば、専門を学んでいない2年生でも授業をしっかりと理解できました。

語学について、出発前は、英語はTEDというアプリケーションで毎日プレゼンテーションを聞いていました。レンヌではいろいろな国の出身の先生から学ぶので、TEDでネイティブ以外の国の人の英語を聞くことは役に立ったと思います。その他に、TOEICの点数を上げるために勉強していました。ですが、周りの学生は英語が堪能で、出国前にもっと英語力を高めておくべきだったと思うので、使える単語を頭に入れ、できる限り英会話を練習してから留学することをお勧めします。フランス語に関しては、日常生活では困りませんでした。明治大学の授業を最大限に活用すれば十分だと思います。私は、2年生の前期に必修2科目と、プラスワンと学部間共通外国語の4コマを受講していました。この4コマを最大限に活用して、自分で単語を勉強すれば日常生活では十分です。加えて、フランス語の単語帳で仏検に向けて勉強しました。‘仏検合格’のような、期間が限られている目標を立てて取り組み、モチベーションを高めて取り組みました。

出国前の手続きについては、現地での滞在先を決められず、とても苦労しました。滞在先が決まらなるとVISAのステップに進むことができないので、留学が決まり次第探すこ

とをお勧めします。レンヌは学生がとても多い街なので、遅くなればなるほど滞在先を決めることが難しくなります。また、VISA も多くの書類を揃えなくてはいけないので、できる限り早めに行動する方がよいです。また、私は戸籍の法廷仏語翻訳を日本で行ってから行きませんでした。CAF という政府からの住宅手当を申請するために必要となるので、日本でするにしてもパリでするにしても早めに手に入れる方がよいと思います。私の場合、最終的に必要となったので、在仏日本大使館で翻訳を依頼し、9 ユーロで 3 日程で受け取りました。日本で依頼すると 6000 円程で 1 週間かかるので割高です。その他の手続きについてはメールに添付してある資料のとおりに進めていけば問題ありません。また、パスポートや VISA のコピー、証明写真は色々な場面で必要になるので多めに用意しておくといよいです。



中心地の Republique 駅のバス停

台湾人の友達 2 人と

コロンビア人の友達と

2. 協定校での諸手続き

はじめに、保険や OFII（移民局）の手続き、学生証の作成を行います。時間などはメールに添付されて送られてくるので、予め資料を準備して行けば一度ですべての手続きを完了させることができます。保険は、明治大学で予め入りますが、レンヌ商科大学でももう一度保険に入る必要があります。学生証は、ISIC という国際学生証を作成します。このカードを提示することで、様々なところで学生割引を受けられるのでとても便利です。

3. 宿舎と日常生活

私は、レンヌの中心地にあるアパートメントホテルで、ルームシェアをしていました。人生初めてのルームシェアでたくさんの思い出を作ることができました。一緒に夜ご飯を作ったり、自国の言語を教えあったり、最後には一緒に旅行もしました。Sainte-Anne という地下鉄の駅が最寄りで、中心地だったので、どこへ行くにしてもとても便利な場所でした。また、その最寄り駅の付近にある古本屋さんやたばこ屋さんを見つけてからは、フランス語の本や雑誌を買いました。レンヌ商科大学での会話は英語なので、フランス語に触れる機会を自分で増やすように心がけてました。レンヌは小さな街ですが、毎週土曜日にはフランスで 2 番目に大きいと言われる朝市が、クリスマスシーズンになるとクリスマスマーケットが 2 箇所で開催されます。また、ガレットとクレープが有名なブルターニュ地方にあるレンヌには、その専門店がたくさんあります。学生が多く、日用品も揃いやすく、

地下鉄も綺麗でとても暮らしやすい街です。地下鉄は1本のみですが、バスがたくさんあるので移動には困りませんでした。1ヶ月30ユーロでバスも電車も乗り放題の KorriGo という定期券を購入して使っていました。

レンヌ商科大学には Well'come チームという留学生のためのサポート団体があります。この団体が様々な企画をしてくれるので、8月の終わり頃から新学期の始めにかけて多くのイベントが開催されます。中には、Well'come チームのイベントに参加している他の団体同士が学生の投票で競い合い、負けた団体が罰ゲームとして全学生に無料で伝統料理を振る舞うということも何度かありました。今まで知らなかったゲームやアクティビティーなども多く、どのイベントも楽しかったので参加することをお勧めします。



Campus1 を 2 階から



Campus1 の外観



土曜日の朝市



冬に一時的にできた仮設遊園地



レンヌのクリスマスマーケット

4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

普段の授業は、英語で講義を受け、グループごとにディスカッションをしてから各々口頭で発表する形式でした。そして、ほとんどの授業で、中間と学期末に5人ずつのグループごとにパワーポイントを作成し、20分程度のプレゼンテーションを行いました。

私は、French Language、French Culture、Advertising、Managing Cultural Diversity、Entrepreneurships and Small Business、Supply Chain Management の6科目を履修しました。French Culture と Supply Chain Management では、プレゼンテーションではなくレポートを提出しました。ビジネスの科目では、ほとんどの授業でグループワークやケーススタディーをしました。多くの授業で、実際の会社の事例から学ぶことができたので実践的で興味深い内容でした。また、日本は話題に上ることが多かったので意見を求めら

れることも多々ありました。その際、他の国の学生が日本をよく知っていて驚かされ、もっと自分の国について勉強しなければならないと実感しました。

始めは、授業を3時間の1コマ集中して聴き続けることすら難しく感じていましたが、慣れてきて内容をしっかりと理解できるようになりました。また、学期末が近づくにつれて、プレゼンテーションの準備をしたりグループワークが増えたりしたので、とても忙しかったです。ですが、他の国の学生たちと協力して一つのプレゼンテーションを作るという貴重な経験ができました。また、周りの学生は皆英語が堪能で、日本から交換留学に来てる日本人は明治の学生のみだったので、語学力の向上のためにも良い環境でした。留学前に比べて、言いたいことが英語で出てこないことや、聞き取れないことが少なくなったと実感しています。

課外活動は、バスケットボールに何度か参加しました。健康診断を受けて証明書を見せる必要があり続けられず残念でしたが、楽しかったです。



ブリュターニュ地方名産物の
そば粉クレープ、ガレット

International Day で
友達と振る舞ったお寿司

レンヌのサッカー1部リーグ観戦



フランス人の友達と Parc Thabor

友達とモンサンミッシェル

5. 帰国準備と帰国後の手続き

帰国前は携帯電話会社を解約し、銀行の口座を閉めます。携帯電話の解約は、携帯会社で書類をもらって記入して郵送するのみで簡単にできました。その他に、フランス出国の際に、3ヶ月以上滞在した場合はOFII（移民局）の証明書が必要となるので、指定された日にちにOFIIの事務所に行きました。私の場合は、1月下旬に指定されました。パスポートに書類を貼り付けてもらうだけなので手続き自体は2分程で終わりました。加えて、帰国に向けて明治大学に提出するための書類を作成しました。

6. 商学部学生へのメッセージ

私は、海外に興味を持ち始めた頃から、学生になったら時間があるうちに長期留学に挑戦して、日本ではできない経験をしたと思っていました。そして、一年生の冬に学部間留学でレンヌ商科大学に応募しました。フランス語を第二外国語として学んでいて話せるようになりたいと思ったことと、日本とは遠く離れたヨーロッパの中心でビジネスを学び、異文化の中で暮らしてみたいと思ったことがきっかけです。短期留学も一人暮らしもしたことがなく英語も話せませんでした。その環境に入ればできるようになるだろうと思い、準備をほとんどしないまま留学生活が始まりました。やはり思っていた通り、他の国の学生はすでに英語が堪能でビジネスを学びに来ていたので、英語もビジネスの知識もない私は勉強不足と準備不足を実感しました。また、どの授業でも日本について取り上げ、他の国の学生が多くの意見を出していたので、外から見た日本は自分が考えていたよりも遥かに注目されていることを知りました。私は自分の国について全然知らないことを情けなく思いました。帰国後は3年生になり専門分野に入っていくので、しっかりとビジネスを学び、他の国の学生のようにさらに一步進んで、知識に対して自分の意見を持つように取り組みうと思いました。留学中は日本では経験できないことがたくさんあるのはもちろんですが、日本にいたら考えなかったと思うことも多々あり、周りの学生からの影響がとても大きかったです。そして、帰国後はもっとビジネスについて勉強し、多くのことに挑戦したいと思ったので、留学を機にモチベーションが一気に高まりました。改めて、多くのことを考え、この先プラスにつながることをたくさん実感できた留学だったと思います。もし、もっと刺激のあるところで生活し、色々な視点でたくさん考えたいという気持ちがあるのならば、留学に挑戦してみることをお勧めします。



南仏の世界遺産 Pont du Gard



台湾人の友達と
ベルサイユ宮殿



スイスのジュネーヴで出会った
スペイン人の友達

7. その他

この留学期間にヨーロッパを旅行しました。節約するために **Bus Rader** というアプリでバスを予約し、様々な国へ行きました。少し遠くへ行きたい時は、**sky scanner** で LCC の格安航空券を購入して旅行しました。国境を越えて違う国へ入るたびに独特な雰囲気や文化があり、どこも魅力的な国ばかりでした。また、旅行先で多くの人に出会い、日本や他の国についてなどを話し合うと、驚かされることが多く楽しかったです。ヨーロッパへ留学することの利点のひとつとして、隣の国へすぐに行けるので旅行しやすいところだと思います。最終的に、8カ月間の滞在中にフランスを除いて15カ国に行くことができました。多くの国を訪れ色々な人に出会い、貴重な経験をすることができました。



南ドイツにある
ノイシュヴァンシュタイン城



ディズニーランド Paris



スウェーデンのストックホルム
にある魔女の宅急便のモデルの街